

桂スチール

高付加価値BH受注強化

今期売上高150億円目標

桂スチール(本社岡山県備前市、三木桂吾社長)は今期(2019年9月期)の目標、前期(18年9月期)の業績を明らかにした。今期は売上高で前期比21.3%増の150億円、経常利益は前期並みの水準の確保を目指す。主力のBH(ビルトH形鋼)の製作量については同横ばいの年間8万ト程度、切板数量も同横ばいの8万2000ト-8万3000トを計画している。BH(ビルトH形鋼)については大型・長尺サイズや異形物など高付加価値製品の受注を強化するとともに、製品価格の是正をさらに行う。人手不足と労働時間の規制に対応するため、工場の無人化設備・省力化設備の導入を促進する。

同社は国内最大手のBH製作業者で、岡山第1工場、岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、玉野工場、玉野第2工場、姫路工場を有し、建築向け厚板加工(切板)の製作を行っている。

山第5工場、玉野工場、玉野第2工場、姫路工場、およびBHなどの一次加工に加え、鉄構部材の製作を行っている。

前期は首都圏の再開発案件やオリンピック関連施設、北海道の空港施設整備、その他の

地区でも大型工場、高層ビル向けなどの受注が好調。これを反映し、主力のBH製作量は全工場がハイレベルな稼働となり、特に下期は月間7000トを超え、製作月が続き、年間ベースでも17年9月期比約12%増の8万ト程度。切板数量も同12%増の8万2000ト程度となった。

一方、母材の厚板の値上がりを受け、BHだけでなく、切板の価格についても是正を進めた。結果、売上高は144億7000万円に増加し、過去最高となった。経常利益は販売価格の改善ができたものの、材料費・輸送費に加え、人件費も上昇し、黒字ながら、前期並みの水準にとどまった。

今期は人員面や労働時間の制約もあることから、BHなどの製作量、切板数量は前期並みの水準とする。ただ、S造の大型物件や高層物件の建築工事は安定的に出る方向にあることから、こうした物件向けのBHの大型サイズや長尺物、異形物の

受注を強化する。また、こうした特殊サイズに合わせた大型の溶接関連設備、無人化・省力化の設備導入を促進していく。